

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100182	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	株式会社 イル・クォーレ		
事業所名	グループホームいなかの青空		
所在地	(233-0003) 横浜市港南区港南4-4-19		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年8月8日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の笑顔は何よりも大切に、職員が働きやすくストレスのない環境づくり、ご家族様に安心して頂けるような対応を心掛けております。四季折々の景色や季節を感じるお食事など、ドライブや外食レクなども豊富で感情豊かな生活を提供出来るようスタッフ一同頑張っております。新型コロナウイルスが長期化、再拡大しているなかご面会やご家族様をご招待しての行事も自粛せざるを得ない状況で御座いますが一人一人の思いに寄り添った支援をこれからも努力してまいります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年10月15日	評価機関 評価決定日	令和3年11月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は横浜市営地下鉄「港南中央駅」から徒歩10分位の閑静な住宅地の一角にあります。大岡川沿いに建つ3階建ての建物の2階、3階がグループホームです。メイン道路から1本奥に入った所なので、静かで車の通りも少なく高齢者の散歩にも安全です。近くにコンビニもあります。

<優れている点>

代表は毎日2回各ユニットを周り、入居者に声掛けをしています。年に2回防災訓練を実施しています。職員はシフト制で勤務がバラバラですが、全職員が訓練に参加できるまで何回も繰り返し実施しています。繰り返しの実施で入居者の避難行動もスムーズにできるようになっています。また、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関やユニット入口は施錠していません。入居者の動きを注意深く観察し、出て行ってしまう入居者には寄り添い見守りながら対応しています。中庭では、ベンチやテーブルが置かれ、家庭菜園や花、果樹栽培をしています。入居者は野菜や果物の収穫をしたり、花をつんでリビングに飾ったり、ベンチで日光浴やお茶、食事をすることもあり、楽しく過ごしています。

<工夫点>

週に1回フリーメニューの日を設け、入居者の好みや季節の食材を取り入れ、餃子、サンドイッチなど皆で作って楽しんでいます。また、第三者評価の自己評価は職員全員で行い、日頃の支援を振り返る機会としています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームいなかの青空
ユニット名	いなかの青空 本館2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	フロアに理念を掲示している、職員は内容を把握し職員間で共有している。	理念はリビングの見やすい場所に掲示し職員の入職時に説明しています。ミーティングでは、理念に沿った対応が出来ているかを話し合っています。毎年法人代表から一年の目標が示されその目標に向かい職員全員で思いをまとめ支援に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染拡大の影響の為思うように出来ないこともありますが例年ですと自治会の行事に参加、近隣の保育園児との交流、お祭りなど積極的に取り組みがある。また近隣のお散歩や中庭での外気浴の際ご近所の方とのふれあいがある。	コロナ禍の為、残念ながら例年のように自治会や保育園との交流は出来ません。散歩がてら、事業所の横を流れる川の鯉に餌をあげたり、中庭でお茶をしたり、すいとんを食べることもあります。その際は近隣の方と挨拶などで交流もしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年ですと運営推進会議等の場をお借りして地域の方々に発信していることも、コロナウイルス感染拡大の影響もあり思うように活動が出来ておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年に入りコロナウイルス感染拡大の影響の為運営推進会議も書面開催とさせて頂いており対面での意見交換等は出来ない状態にあります。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。コロナ禍の為、書面開催となっていますが、運営推進会議報告書は活動状況報告書を添付して市高齢課や地域ケアプラザに持参しています。家族にも郵送し、事業所の現状を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	例年ですと介護相談員さんをお迎えして様々な意見交換や助言をいただいておりますが去年より新型コロナウイルス感染拡大の影響の為取り組みの場を設けることが出来ない状態です。	市高齢課や地域ケアプラザとは運営推進会議の報告書を持参した時に事業所の取組みを伝えていきます。また、市とはコロナ対応についてアンケートでやり取りをし、協力関係を築くようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を年に2回開催し、都度課題を提示、研修資料等作成しミーティングを通してスタッフと問題解決に取り組んでいる。またビデオ研修も実施。身体拘束自己点検シートを年に2回行い振り返りの場を設けている。	職員はビデオ研修や身体拘束自己点検シートなどで、身体拘束について正しく理解して支援に取り組んでいます。玄関や各ユニット入口の鍵はかけていません。入居者の動向を察知し見守りで対応しています。転倒の恐れのある入居者には家族の承諾を得てセンサーマットを導入しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待については身体拘束委員会で出た議題を資料にまとめミーティング等を通し職員間で共有している。また突発ででた問題に対しては都度話し合いをし解決に繋げている。	言葉づかいには気を付けています。堅苦しくなく、砕けすぎではない言葉遣いを目指しています。管理者は常に注意を払い、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き職員の理解を深めるように検討しているも、なかなか機会を設けることが出来ず外部の研修もコロナウイルス感染拡大の影響の為厳しい状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、ゆっくりと丁寧に契約書を読み上げ各項目ごとに質問や疑問点を尋ね説明をさせていただいております。より深い疑問点や心配な事には納得のいくまで説明させていただいております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本来ならば運営推進会議等の場を設けご家族様と意見交換などを行っていましたが、コロナウイルス感染拡大の影響の為、運営推進会議も書面開催となり、表せる機会を設けられない状態ですが、質問等頂いた際には都度お答え致しております。	コロナ禍以前は、運営推進会議の時や面会時に家族からの意見を聞いています。現在は電話で家族に入居者の様子を伝えた時などに、意見や要望を聞いています。家族からの要望で職員の名前をエプロンに縫い付けた事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談を行っていただく機会を設けてもらっておりその場で意見が言えている。またミーティングの場でも話し合いを行っている。業務関連なことであれば都度報告・相談を行い反映することが出来ている。	年に1回、代表と管理者、職員の三者面談をしています。その際に職員の意見や要望を聞いています。ミーティングでは各職員が意見を出し、話し合いをして意見を反映させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ一人一人の意見や考えを聞いた上で常に改善に努めている。福利厚生については出来るだけ職員が不利益になる事が無いよう努めている。	職員には希望休を募ってシフトを組んでいます。有給休暇は取りたい時に取れるようにしています。外部研修の費用は法人が負担しています。職員が向上心を持って働けるように努めています。産休明けの職員は時短勤務をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修のお申し込みはほぼ全員が行っているも、現状コロナウイルス感染拡大の影響の為セミナー中止のご連絡も多数御座います。現状施設内でのビデオ研修を全員参加で行っております。また働きながらの実地研修も行っております。	研修一覧表から自分が受けた研修を選び、申し込みを行っています。ほぼ職員全員が外部研修を受けています。事業所内でのビデオ研修は全員参加です。研修後は報告書を提出し、フロア会議で研修報告をして職員で共有しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は交換研修を行っていましたが新型コロナウイルスが拡大・長期化している中で昨年より実施出来ない状態にあります。コロナウイルスの状況が変わればまた再開したいと思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の基本情報やご家族様からの聞き取り、フェイスシート等を利用、事前訪問での入居者様との会話を通し、ご本人様の自尊心を傷付けない様、無理せず焦らずにゆっくりと関係作りに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居見学の際にご家族様の要望、困っていることなどをお聞きし出来るだけ不安を解消、安心して頂くようにしています。また職員もご家族様の思いを受け止め納得のいくように説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談受付時、生活面、健康面、経済面等の状況を把握しグループホームに限らず本人に適したサービス出来るよう他の施設と連携をとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	話しやすい雰囲気づくりを心掛け信頼関係を築いたうえで、洗濯物たたみや新聞を折っていただいたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	機会が有るたびに近況を報告させていただき心身の健康状態や生活の様子を伝えている。その上で本人が快適に生活できるように職員とご家族様がコミュニケーションをとり支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍であっても状況をみて一時的に面会を解除したりリモート面会を行っている。希望する入居者様には葉書きや電話などで近況を伝えられるようにしている。	家族の協力で馴染みの美容室に行く入居者もいます。また、馴染みの床屋さんに来てもらい髪をカットしてもらう入居者もいます。家族と一緒に墓参りに行く入居者もいます。コロナ禍においてもリモート面会を実施して家族に喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の趣味や好きなことなど情報を共有することで会話出来るよう図らったり一緒に会話したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様の「今後ご連絡しても良いですか？」というご要望で、退去後も時々連絡があったりご退居された利用者さまの情報をお聞きしたりしています。また近況などお教えくださっております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中での言葉や表情などから把握に努めている。また困難な場合は職員間で情報を共有皆で検討する。	入居者が思いを表出できなくても仕草や目の動き等観察しながら意向の把握に努めています。家族から聞いたり、入居前からの習慣は継続できるように支援しています。耳の遠い入居者へは周りに配慮して筆談で対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様や家族との会話、入居前に利用していたサービスの内容を確認し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態を確認することで、一人ひとりの全体像を把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6か月ごとにケアプランの更新を実施。必要に応じて担当者会議を行いより良いケアに努めている。	ケアプランは6ヶ月ごとに各フロアの計画作成担当者が作成し、家族や医師の意見を考慮に入れ、全職員がフロアミーティングで意見交換し、担当者会議で更新しています。また、ADL（日常生活動作）の低下が見られる時などは随時、見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録ソフトを使い、スタッフ一人ひとりの気づきを共有し、日々の細かな様子や情報、変化などを入力し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族様の希望に対応している。そこからニーズに対して支援している。外部の通院などはご家族様に対応出来ない時には支援させていただき結果報告を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの影響の為現段階での地域活動への参加はとても厳しい状態にあるが、コロナが終息したらまた以前のように少しずつ参加していきたいと思っております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時はご家族様の希望で本来のかかりつけ医に通院されているも、入居者様の状態の変化やご様子によっては24時間対応の施設の往診医に変更される方もおられる。	事業所の協力医が月に2回訪問し、入居者全員を診ています。歯科は週に1回、看護師が週に2回訪問しています。外来受診の際の付き添いは原則、家族ですが、困難な場合は職員が同行支援しています。眼科・皮膚科は協力医と同病院のため受診情報の共有が円滑にできています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様に特変があった場合、看護職員へ連絡し指示を仰ぐ。その中で受診や往診が必要な状態にあれば、ご家族様にご連絡させていただき対応する。また記録も細かく入力的確に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様又は職員が付き添い情報提供を行っている。またご本人様、ご家族様が安心して治療出来るよう病院関係者（NSや相談員）とも連絡を取り合い早期に退院出来るよう体制を整えている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の判断で終末期と診断された場合、医師の指示のもとご家族様の意向をお伺いし、施設で出来ること、最大限ご家族様の希望を取り入れ、スタッフ全員で話し合い共有し、少しでも良い支援が出来るよう努力している。	利用契約時に事業所の「重度化及び看取りにおける指針」を明示し、協力医療機関との連絡体制、看取りに関する指針、意思確認の方法などについて説明しています。多くの看取り実績があり、本人や家族の意向に沿って医師、職員が連携して取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応のマニュアルを作成しております。また事例を用いてミーティングの際に再確認を致しております。が職員の応急手当や初期対応の訓練は行っておりません。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員全員参加で年2回防災訓練を行っております。（火災・地震・風水害）例年ですと消防署の方にも来て頂いて消火訓練や煙体験等行いお話をしておりますがコロナウィルスの影響の為現状見合わせております。入居者様も参加されています	消防署と連携を図り、年に2回さまざまな災害を想定して利用者とともに訓練を行っています。休みの職員のために出勤日に再び訓練を行い、全員が訓練を経験し、振り返りを行って記録に残しています。災害備蓄品は数量や消費期限を表にして管理、準備しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや接し方に気をつけ、ミーティングの場で見直す機会がある。プライドを損ねないように過剰介護は行わず上から目線の言葉は使わない。	名前を呼ぶ時は年長者として敬意を払い、馴れ合いにならないように注意しています。トイレへの誘導はさりげなく、人前でのあからさまな支援はしないようにしています。入居者の誇りを傷つける語調や態度になっていないか、職員は日常的に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	無理強いせずマイペースで生活していただき、職員の判断ではなくご本人に意思確認をし判断してもらっている。お茶の時間など本人にお伺いし希望に応えられるよう選択肢を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々に合わせた起床時間や、食事の好みなどで出来る限りの対応と、お散歩など入居者様の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様と一緒に衣類の選択を行ったり、季節に合った衣類の交換などご家族様にも協力をしてもらっている。出来る限り入居者様の思いを尊重している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好きなもの嫌いなものを把握し食べれない時は代替品を用意している。	食材と献立は業者で、入居者は下ごしらえや、下膳の手伝いをしています。毎週、フリーメニューの日があり、入居者の好みや季節の食材を取り入れ、餃子、サンドイッチなど皆で作って楽しんでいます。誕生日には居室担当者がケーキや天ぷらなども作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事量、水分摂取量を記録して個々の状態に合わせて食事形態を変え水分も少しの介助や声かけで接種して頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯の方は外して磨き仕上げの支援をしている。ご自分で出来る方は無理の無いよう見守りし、声かけしながら最後の確認をさせていただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄時間をチェックし、排泄の声かけや行動の変化に気をつけながら支援する。自分でトイレに行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけない様配慮しながら行っている。	タブレットへの入力で排泄時間などをデータ化し、声掛けや誘導の支援をしています。職員ミーティングでオムツやパットの見直し、オムツ会社の変更もしています。オムツで退院し、その後の支援でリハビリパンツになったケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防になる食物などを組み合わせたり、毎日排便のチェックをして個々の体調を主治医、看護師、職員間で話し合い薬の調整などしている。また腹部のマッサージ等も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日でも体調に合わせて変更している。浴室の前に「ゆ」と書かれた大きな暖簾をかけ、入浴剤などいれたり入浴中は会話しながらリラックス出来るよう支援に努めている。	2階はリフト浴の設備が整い、介護度の高い入居者へは座ったままで入浴支援をしています。室温に注意し、風呂マットは入居者ごとに替えています。入浴したくない利用者には様子を見ながら言葉を掛け、時間を変えて、または翌日にするなどの工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も本人の体調に合わせて休息を促し夜間は入居者様のペースで居室に戻っていただいている。また安全に就寝していただけるよう温度調節など環境整備を徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報をいつでも確認出来るようファイルし、服薬も表にまとめスタッフ間でダブルチェックしている。体調や行動に変化があれば、訪問診療時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や好きな事などの情報を集め心身の状態に合わせて気分転換などレクを取り入れる。また好きな園芸や菜園なども楽しみの一つになっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節ごとにお花見などのドライブレク、ファミレスや回転ずしなど外食にも行っていたが、現在はコロナウィルスの影響で思うように出来ず、施設の中庭や近隣のお散歩等の支援を行っている。	穏やかな天気の日には、職員と一緒に外に出るようにしています。中庭には野菜作りや園芸が楽しめる菜園があり、ベンチに腰を下ろして日光浴する入居者もいます。コロナ禍のため、近くの寺へ車で行き、車内から花見をする支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様のご希望により、ご家族様のご確認を得て施設の方でお預かりしている。以前は入居者様の要望を叶えるため、一緒にスーパーなどへ行っていたが、現在は三密をさける目的で外出の機会も少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの入居者様は自由にご家族様や友人へ電話をかけている。また、ご家族様から入居者様の声が聞きたいと、かかってくる場合もある。正月にはご家族様に向けて年賀状を書いて頂いている。書けない入居者様には支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレや浴室には分かりやすく表示があり、浴室前には暖簾がかけてある。季節に合わせた壁紙や、飾りを作って、目でも楽しめるようにしている。また温度、湿度を測定し過ごしやすい空間を作っている。	リビングには季節の壁飾りや手作りカレンダー、行事の写真を掲示しています。入居者の動線を考えて家具を配置し、食席は相性や歩行状態を考慮して決めています。テレビの前のソファで洗濯物を畳む、テーブルで塗り絵をするなど、それぞれ思い思いに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にはソファを置きくつろいで観ることができる。席は其々の関係を配慮し配置している。お部屋で過ごされることが多い方にはこまめに訪室し声掛けを行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンや家具は備え付けの為、個性のないお部屋にならない様自宅で使っていた馴染みの家具やテレビ、お写真など持ってきて頂き、見慣れた環境の中で安心して過ごされるようにしている。	居室には洗面台、ベッド、クローゼット、エアコン、換気扇、カーテン、空気清浄機を設置しています。家族の写真を飾った部屋、机やテレビを置く部屋など、居心地の良い居室になっています。居室担当者制で、整理整頓や清掃を入居者と一緒に行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様に変化や問題が生じた場合、ミーティングなどで話し合い、安全な環境作り、危険防止への取り組みを行っている。		

事業所名	グループホームいなかの青空
ユニット名	いなかの青空 本館3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	フロアに理念を掲示している、職員は内容を把握し職員間で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染拡大の影響の為思うように出来ないこともありますが例年ですと自治会の行事に参加、近隣の保育園児との交流、お祭りなど積極的に取り組みがある。また近隣のお散歩や中庭での外気浴の際ご近所の方とのふれあいがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年ですと運営推進会議等の場をお借りして地域の方々に発信していることも、コロナウイルス感染拡大の影響もあり思うように活動が出来ておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年に入りコロナウイルス感染拡大の影響の為運営推進会議も書面開催とさせていただいており対面での意見交換等は出来ない状態にあります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	例年ですと介護相談員さんをお迎えして様々な意見交換や助言をいただいておりますが去年より新型コロナウイルス感染拡大の影響の為取組みの場を設けることが出来ない状態です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を年に2回開催し、都度課題を提示、研修資料等作成しミーティングを通してスタッフと問題解決に取り組んでいる。またビデオ研修も実施。身体拘束自己点検シートを年に2回行い振り返りの場を設けている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待については身体拘束委員会で出た議題を資料にまとめミーティング等を通し職員間で共有している。また突発ででた問題に対しては都度話し合いをし解決に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き職員の理解を深めるように検討しているも、なかなか機会を設けることが出来ず外部の研修もコロナウイルス感染拡大の影響の為厳しい状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、ゆっくりと丁寧に契約書を読み上げ各項目ごとに質問や疑問点を尋ね説明をさせていただいております。より深い疑問点や心配な事には納得のいくまで説明させていただいております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本来ならば運営推進会議等の場を設けご家族様と意見交換などを行っていましたが、コロナウイルス感染拡大の影響の為、運営推進会議も書面開催となり、表せる機会を設けられない状態ですが、質問等頂いた際には都度お答え致しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に三者面談を行っていただく機会を設けてもらっておりその場で意見が言えている。業務関連なことであれば都度報告・相談を行い反映することが出来ている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ一人一人の意見や考えを聞いた上で常に改善に努めている。福利厚生については出来るだけ職員が不利益になる事が無いよう努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修のお申し込みはほぼ全員が行っているも、現状コロナウイルス感染拡大の影響の為セミナー中止のご連絡も多数御座います。現状施設内でのビデオ研修を全員参加で行っております。また働きながらの現地研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は交換研修を行っていましたが新型コロナウイルスが拡大・長期化している中で昨年より実施出来ない状態にあります。コロナウイルスの状況が変わればまた再開したいと思えます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の基本情報やご家族様からの聞き取り、フェイスシート等を利用、事前訪問での入居者様との会話を通し、ご本人様の自尊心を傷付けない様、無理せず焦らずにゆっくりと関係作りに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居見学の際にご家族様の要望、困っていることなどをお聞きし出来るだけ不安を解消、安心して頂くようにしています。また職員もご家族様のお話に耳を傾け職員間で情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談受付時、生活面、健康面、経済面等の状況を把握しグループホームに限らず本人に適したサービス出来るよう他の施設と連携をとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日頃からコミュニケーションを重ね少しずつ関係性を深め信頼を得られるように努めている。その上で無理のないように、ご自分で出来ることはやって頂き共に支え合う関係を築けるよう気をつけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様から電話があった時などご本人様の様子や状況をお伝えし、面会が出来ない状態であっても職員と家族がコミュニケーションをとり本人が快適に過ごしていただけるように支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ過であっても状況をみて一時的に面会を解除したりリモート面会を行っている。またご友人様からお葉書が届いたり、電話でお話などもされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の趣味や好きなことなど情報を共有することで会話出来るよう図らったり一緒に会話したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様の「今後ご連絡しても良いですか？」というご要望で、退去後も時々連絡があったりご退居された利用者さまの情報をお聞きしたりしております。また近況などお教えくださっております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中での言葉や表情などから把握に努めている。また困難な場合は職員間で情報を共有皆で検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様や家族との会話、入居前に利用していたサービスの内容を確認し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態を確認することで、一人ひとりの全体像を把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ほぼ出来ている。担当者会議の実施。また必要に応じ都度話し合い、より良いケアを目指している。ご家族様の思いやご希望にそうように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ほぼ出来ている。支援内容の変更は共有し実践に伴う記録を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族様の希望に対応している。そこからニーズに対して支援している。外部の通院などはご家族様が対応出来ない時には支援させていただき結果報告を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの影響の為現段階での地域活動への参加はとても厳しい状態にあるが、コロナが終息したらまた以前のように少しずつ参加していきたいと思っております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様やご家族様の希望するかかりつけ医にも継続して通院していただいている。その場合は受診前の状態や変化などをまとめた書面を作成しご家族様にお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様に特変があった場合、看護職員へ連絡し指示を仰ぐ。その中で受診や往診が必要な状態にあれば、ご家族様にご連絡させていただき対応する。また記録も細かく入力し的確に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様又は職員が付き添い情報提供を行っている。またご本人様、ご家族様が安心して治療出来るよう病院関係者（NSや相談員）とも連絡を取り合い早期に退院出来るよう体制を整えている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の判断で終末期と診断された場合、医師の指示のもとご家族様の意向をお伺いし、施設で出来ること、最大限ご家族様の希望を取り入れ、スタッフ全員で話し合い共有し、少しでも良い支援が出来るよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応のマニュアルを作成しております。また事例を用いてミーティングの際に再確認を致しております。が職員の応急手当や初期対応の訓練は行っておりません。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員全員参加で年2回防災訓練を行っております。（火災・地震・風水害）例年ですと消防署の方にも来て頂いて消火訓練や煙体験等行いお話をさせて頂いておりますがコロナウィルスの影響の為現状見合わせております。入居者様も参加されています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや接し方に気をつけ、ミーティングの場で見直す機会がある。プライドを損ねないように過剰介護は行わず上から目線の言葉は使わない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	無理強いせずマイペースで生活していただき、職員の判断ではなくご本人に意思確認をし判断してもらっている。お茶の時間など本人にお伺いし希望に応えられるよう選択肢を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々に合わせた起床時間や食事の好みなどで出来る限りの対応と、入浴も決まった曜日を設定しているが、入居者様の要望で入浴日を変更して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様と一緒に衣類の選択を行ったり、季節に合った衣類の交換などご家族様にも協力をしてもらっている。出来る限り入居者様の思いを尊重している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の食べたい物を聞き取り、週に一度のフリーメニューの時に提供している一緒に調理を行い食材のカットや盛り付けなど一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の食事量や水分の記録、日常の様子から不足している物は何か把握し対応している。糖尿病の方にも過度な接種にならないように量の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをさせていただき、丁寧に磨けているか見守り、ご本人様が難しい場合は介助する。状態によってはスポンジブラシも使用する。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄時間をチェックし、排泄の声かけや行動の変化に気をつけながら支援する。自分でトイレに行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけない様配慮しながら行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の記録を参考に水分量は1日1000ミリ以上としているか、散歩に行ったり体操したり体を動かすレクをして規則正しい生活が送れるよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前に声かけして、拒否があった場合は無理強いせずに変更している。本人の希望によりシャワー浴、個浴、同性介助など個々に合わせた支援をしている。入浴中は会話などでリラックス出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も本人の体調に合わせて休息を促し夜間は入居者様のペースで居室に戻っていただいている。また安全に就寝していただけるよう温度調節など環境整備を徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報をいつでも確認出来るようファイルし、服薬も表にまとめスタッフ間でダブルチェックしている。体調や行動に変化があれば、訪問診療時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や好きな事などの情報を集め心身の状態に合わせて気分転換などレクを取り入れる。また好きな園芸や菜園なども楽しみの一つになっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節ごとにお花見などのドライブレク、ファミレスや回転ずしなど外食にも行っていたが、現在はコロナウィルスの影響で思うように出来ず、施設の中庭や近隣のお散歩等の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様のご希望により、ご家族様のご確認を得て施設の方でお預かりしている。以前は入居者様の要望を叶えるため、一緒にスーパーなどへ行っていたが、現在は三密をさける目的で外出の機会も少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの入居者様は自由にご家族様や友人へ電話をかけている。また、ご家族様から入居者様の声が聞きたいと、かかってくる場合もある。正月にはご家族様に向けて年賀状を書いて頂いている。書けない入居者様には支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレや浴室には分かりやすく表示があり、浴室前には暖簾がかけてある。季節に合わせた壁紙や、飾りを作って、目でも楽しめるようにしている。また温度、湿度を測定し過ごしやすい空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にはソファを置きくつろいで観ることができる。席は其々の関係を配慮し配置している。お部屋で過ごされることが多い方にはこまめに訪室し声掛けを行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンや家具は備え付けの為、個性のないお部屋にならない様自宅で使っていた馴染みの家具やテレビ、お写真など持ってきて頂き、見慣れた環境の中で安心して過ごされるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様に変化や問題が生じた場合、ミーティングなどで話し合い、安全な環境作り、危険防止への取り組みを行っている。		

2021年度

事業所名

作成日： 令和3 年 11 月 16 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の定着。特に新しく入職された方がなかなか定着されず、すぐに退職されてしまうことや、現職員に対する不平不満がたびたび聞かれることに対する取り組み。	職員の定着。現職員に対する疑念を取り除く。	職員同士のコミュニケーションの場を作り、関係改善に努める。また一人一人の存在を認め、仕事の不安や悩みにも対応「ありがとう」という感謝の気持ちを言葉にして相手に伝える。それを継続的に行う。	6ヶ月
2	13	今回の外部評価のアンケートにより、伝達事項の社内共有が出来ていないのでは。という声が聞かれていた為「報告・連絡・相談」に対する取り組み。	伝達事項。報告、連絡、相談の徹底。	「報告、連絡、相談」の必要性。重要性を職員間で共有する。またそれに対する意識を高め持続的に行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月